

『C V 拡幅工法を用いた分岐合流部の地中接合工法』の概要

本線トンネル3車線、ランプトンネル2車線の道路トンネルの分岐合流部を例に各区間の概要を以下に記します(下図参照)。

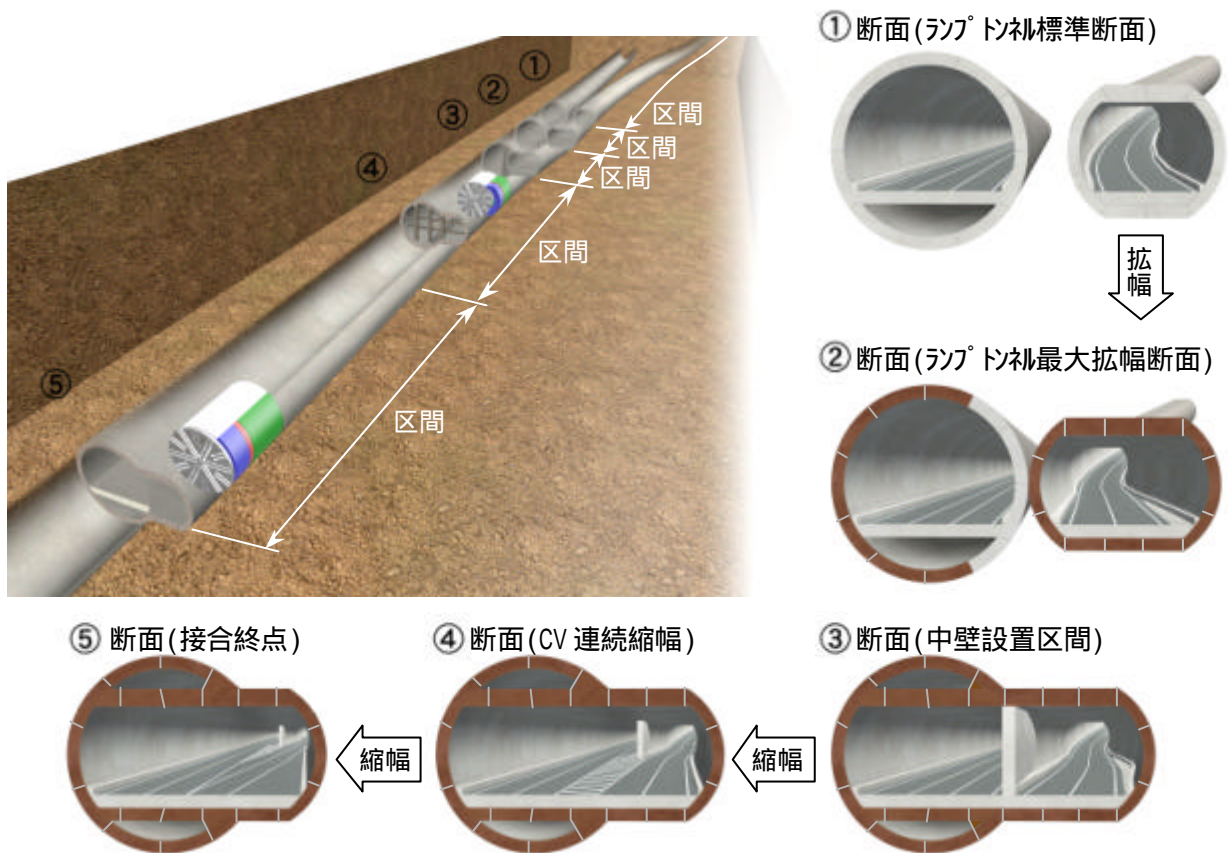
区間 : 接合前であり、本線、ランプトンネルともRCセグメントの覆工とし、ランプトンネルは標準断面(最小断面)で掘進します。

区間 : ランプトンネルを連続拡幅しながら最大拡幅断面(拡幅量: 2,700mm)になるまで掘進を行います。本線、ランプトンネルとも鋼製セグメントの覆工となりますが、本線トンネルの接合側には直接切削可能なセグメントを組立てておきます。

区間 : 最大拡幅状態のままC V 拡幅シールド機にて本線トンネルを直接切削します。この区間は車線合流前であり、中壁を設置します。

区間 : ランプトンネルの車線が本線側に順次シフトしていくことから、ランプトンネルを連続縮幅しながら標準断面(最小断面)になるまで掘進します。

区間 : 接合終点までランプトンネルを標準断面で掘削します。



参考図 『道路トンネルの分岐合流部地中接合』